

今回は体育祭特集号です。

道標ない旅269

“269”とは南郷中の全校生徒数です

平成30年5月24日(第6号)

校長 益田 孝彦 875-9494

◆◆ 体育祭予行の意義 ◆◆

「練習は本番のごとく、本番は練習のごとく」予行の挨拶で述べた言葉です。でも実際に体育祭の予行を見ていて感じたことは、「アドバイスとしてはちょっと違ったな」という感覚でした。

予行の意義は、一つに係活動の生徒が、準備を含め、その役割を理解することにあります。役割を覚えて、責任感を培う上で非常に重要だなど感じました。

一方、実際の競技については、15日は、体育祭本番の4日前です。学年練習も十分とはいえないう状況での競技でしたので、ムカデや2人3脚、3人4脚などの修練が必要な種目は、「練習は本番のごとく」からは、かけ離れた状況でした。むしろ、上手いいかない場面がたくさんあり、自分たちのチームの課題がたくさん見えたのが成果だったと思います。課題に対して、その後の練習でどれだけ伸びたかを楽しみにしていました。

さて、南郷中学校の学校教育目標は、「自立」と「共生」です。その求めるレベルはとても高いものです。生徒たちは、自分たちのチームの勝利を目指して競い合います。純粋に「勝ちたい」と願い一生懸命頑張ります。リレーに限らず、相手チームが追い上げてくる場面で相手のミスで逃げ切れる場面があったとき、ホッとしたり、喜んでしまうのは、無理なからぬことでしょう。でも、「共生」を目指す南郷中では、もっと大きな心を求めています。競い合っている、南郷中の仲間であることには違いがないのです。例えば、頑張り抜いて飛び続けた大縄跳びの記録が、他のブロックに破られたら、「自分たちの仲間が、さらに素晴らしい記録を打ち立てたことを祝福し、誇りに思っていて欲しい」のです。「当日は勝ち負けにかかわらず、3ブロック3学年が協力した体育祭になることを楽しみにしています。」といったメッセージもリーダーとなる3学年に送られていました。

予行を利用して、勝利にこだわりがちな生徒たちに、もっと高い目標に気付かせる。それが予行の隠された意義なのだなと感じました。

◆◆ 今年の体育祭スローガン：「一錬琢生（いちれんたくしょう）」に思いを込める… ◆◆

以下に、開会式で語られた体育祭実行委員会からのスローガンコールの呼びかけを紹介します。

今年の体育祭スローガンは、「一錬琢生（いちれんたくしょう）」です。本来の『一蓮托生』には、「結果の良しあしに関わらず、行動・運命を共にする」という意味があります。これだけでも体育祭にふさわしい四字熟語になります。

体育祭実行委員会では、本来の意味を大切にしつつも、「念を入れて良いものにする」という意味を持つ「錬」の字、完成度を高めるために「美しさを磨き出す」という「琢」の字に置き換えることで、より良い体育祭を目指したいという気持ちを表現しました。

今年もここにいる全員で、より良い体育祭を作り上げましょう。それでは、スローガンコールをお願いします。「今年の体育祭スローガンは！？」…「**一錬琢生！！**」

開会式練習や予行などで何度か語られたこのフレーズ、スローガンはいつの間にか南郷中学生みんなのものにしっかりとっていったようです。

◆◆ 雨の心配を吹き飛ばし、19日に体育祭を実施しました。 ◆◆

雨に備えて、プログラムの入れ替え準備まで整えて迎えた当日でしたが、曇天を吹き飛ばし、第38回体育祭を無事開催することができました。当日ご来場下さった、数多くのご来賓の皆様、保護者・地域の皆様に改めて感謝申し上げます。

開会式でのキビキビとした動き、そして雲を吹き飛ばすとても気合いのこもった校歌に始まった体育祭。開会式の時点で体育祭の成功を感じ取ったのは、決して私一人だけではなかったかと思えます。

生徒会種目「アンダースロー」では、あまり勝負にこだわる感じではない印象だった生徒たちが、100m走からは、目の色変えてのガチンコレースを展開はじめました。



見応えのある全力のプレーがここで見られる中、午前の部でとりわけ見応えを感じたのが、2学年種目「綱取り物語 2018」と、3学年種目「疾風迅雷 102」です。綱取りでは、青はあと1本綱が入れば優勝でしたが、黄色の粘りで時間切れ、2点差で赤が逃げ切り勝利。3学年のリレー疾風迅雷では、抜きつ抜かれつの攻防が展開され、観衆を感動で包み込みました。

忘れてはならないことに、中々破る機会がなかった「長縄跳び」において、3年A組がファーストアタックで、大会記録84回を塗り替える85回を跳んだことでしょう。1回多く更新したところが奥ゆかしいなと思ったのですが、きっと限界ギリギリの粘りだったのだらうなどと改めて感じました。

昼食前後に、「ブロック旗紹介」「ブロック表現」がありました。審査員の方々も生徒たちの気持ちを逃さず受け取ろうと、真剣に審査いただきました。工夫を凝らし、気持ちのこもったブロック表現を審査するのは大変です。集計の結果、「旗デザイン賞」は青ブロック、「ブロック表現賞」は、黄ブロックが獲得しました。見事優勝したのが赤ブロックでしたので、参加した全ての生徒が勝者になれた今年の体育祭ならではの結果といえそうです。



◆◆ 実行委員長など10人のリーダーの「感じたこと」を今号、次号で順次紹介します。 ◆◆

体育祭実行委員長 3-C 山口 宙夢

体育祭の日は雨になると聞いていて、本番前はすごくがっかりしていました。それでも本番前日には委員会の方々や部活の人たちが19日の体育祭のために精一杯働いてくれたおかげか、体育祭の日は晴れになり本当に頑張った良かったなと思えました。そして、体育祭本番では、体育祭実行委員の仕事を忘れて、サボったりする人がおらず、とても良い雰囲気です。体育祭を終えることができました。その中でも体育祭実行委員が前に出る南郷体操では、体育祭実行委員が大きな声で南郷中の校歌を歌って体操を大きく表現するという練習を本番前からやっており、本番でも練習通り大きな声で歌い大きく体操表現できたのでとてもお手本としてみんなに見てもらえたと思えました。体育祭が終わった後の片付けも委員会の方々や部活の人たちが協力して素早く終わることができたのでよかったです。本当にご協力ありがとうございました。

赤ブロック ブロック長 3-B 木崎 集太

赤ブロックのブロック長をやらせていただいた中で大人数をまとめる大変さをすごく感じました。ブロック表現のダンスを教える時もなかなかうまく進行できなくて、ブロックの皆に凄く迷惑をかけたと思います。そんな中でも、ブロリ7のメンバーを中心にすごく協力してくれたので、少しずつですがうまく進行できるようになりました。表現演技賞は取れなかったのですが、赤ブロック全員が協力して総合優勝をとることができたので悔いはありません。ブロック長らしいことは全然できませんでしたが、中学校最後の体育祭を「優勝」というかたちで終われたので最高の体育祭でした。

黄ブロック ブロック長 3-A 鶴田 空

今回ブロック長として体育祭を行ってみて、思ったことがいくつかあります。まずこのブロックは、どのブロックよりも団結力があつたということです。自分ではない人が出ている種目でも全力で応援したり、落ち込んだり困っている人がいたらそっと手を差し伸べたり、助け合って全員が「最高の体育祭にするぞ」という思いがすごく伝わってきました。僕はブロック長と言う目線でみんなを見てきて、普段気づかないみんなのいいところがたくさん分かりました。今年の体育祭をブロック長として終えることができとても幸せに思っています。またこのブロックはやればできるブロックだと言うことを改めて感じさせられました。ぼくのクラスがとった長縄賞も練習では1回も届かなかった85回という大記録を達成することができたり、練習では隊形や動きがバラバラだったブロック表現も本番では全員が一つとなって最高に楽しみながら踊ることができ、ブロック表現賞をとることができました。今回このメンバーで体育祭を盛り上げることができて本当によかったと思っています。

青ブロック ブロック長 3-C 高橋 新ノ助

今回の体育祭でブロック長をやらせていただき、総合優勝はできなかったのですが、ブロック全体で団結し、喜びあうことができたと思います。その理由は体育祭の後半になって点差がかなりついていてもブロック全員がブロック席から立ち上がり、前に出て全力で応援していたことがとても心に残っています。また全ての種目において全員が熱く盛り上がり、全力で最後まで応援できて、負けてしまっても全員ではげまし合い、勝ったら全員で喜び合うことができていたからです。そして退団式で泣いている人や悲しんでいる人はなく、全員が笑顔だったことが心に残っています。全員が楽しむことができる最高の体育祭をブロック全体で団結し創り上げることができたと思います。